平成31年度　事務事業評価シート　［平成30年度事後評価］

整理番号	49				
部　局　名	市民部	所 属 名	文化・青少年課	所 属 長	吉田　美紀
事務事業名	00766	市展・文化祭・写真展等事業		記 入 者	河村　正人

＜1．基本事項＞

総合計画の位置付け	区分	コード	名　　称	根　拠 法令等	文化芸術振興基本法、大津市美術、写真展覧会開催規則
	方針	02	自然、歴史、文化、スポーツを重視し、多くの人が集うまちを創り		
	政策	04	スポーツと文化で、生き生きと楽しむまちにします		
	施策	02	文化・芸術に親しめる環境づくり	関連する個別計画	第２次大津市文化振興ビジョン、第２次大津市文化振興計画
	視点	01	文化・芸術の感動・創造・交流		
	重事	01	市民による文化・芸術の振興		

関連事業	コード	事　務　事　業　名　称	コード	所 属 名 称

予算事業	会　計	枠	事 業 種 別	予　算　事　業　名	始 期 ・ 終 期
	一般会計	特定	評価対象事業	市展・文化祭・写真展等事業費	

事業の概　要	市民が自主的に展開している文化活動の成果を発表・鑑賞し相互に交流を深め、市民文化の向上を図るため、美術展覧会及び写真展覧会を開催している。また、各学区の文化団体や芸術文化団体が自主的に開催する文化祭に対して補助を行っている。
運 営 方 法	□ 直営　□ 指定管理者　□ 民間委託　□ 出資団体委託　■ 補助金交付　□ その他　（　　）

＜2．事業分析＞　ＰＬＡＮ

目　的（何のために）	市民が自主的に展開している文化活動の成果を発表及び鑑賞する場を提供するとともに、市民の主体的な文化活動を支援するため
対　象（何又は誰を）	市展・写真展：県内に在住、在勤、通学する高校生以上の者 文化祭：学区文化協会及び芸術文化団体を対象に
手　段（どのようなやり方で）	市展・写真展：公募により作品募集を行い、入選作品を展示するとともに、優れた作品に対し、賞を授与し 文化祭：地域や芸術文化団体が自主的に開催する文化祭に対し補助金を交付し
成　果（どのような状態にするのか）	より多くの市民に文化活動の成果を発表・鑑賞する場を提供し、文化芸術への関心を高めるとともに、市民の自主的な文化活動の活性化を図る。

＜3．経費＞　ＤＯ

		平成28年度 決算額(千円)	平成29年度 決算額(千円)	平成30年度 決算額(千円)	平成31年度 予算額(千円)	令和 2年度 見込額(千円)	備　考
直接経費 Ａ		7,198	6,705	6,588	6,885	6,885	
人 件 費 Ｂ		12,606	6,768	6,956	6,956	6,956	
事業費合計 Ａ＋Ｂ		19,804	13,473	13,544	13,841	13,841	
事業費の財源内訳	国	0	0	0	0	0	
	県	0	0	0	0	0	
	起　債	0	0	0	0	0	
	その他	7,198	6,705	6,588	6,885	6,885	地域振興基金
	一般財源	12,606	6,768	6,956	6,956	6,956	
職　員　数　（人）		2.14	1.44	1.46	1.46	1.46	
職員数の内訳	正　規	1.38	0.64	0.66	0.66	0.66	
	嘱　託	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
	臨　時	0.76	0.80	0.80	0.80	0.80	

＜4．指標＞　ＤＯ

		指　標　名	単　位	目標・実績	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和 2年度
活動指標	1	募集要項・ポスター配布数	枚	目標	17,300	17,300	14,700	12,850	12,850
				実績	17,300	17,300	14,700	－	－
		市展・写真展に係る要項、ポスターの配布数							
	2	補助金交付団体数	団体	目標	56	56	56	56	56
				実績	52	49	47	－	－
		文化祭開催に対する補助金交付団体数（文化祭実行委員会、芸術団体、地域文化団体）							
成果指標	1	出品数	点	目標	4,500	4,500	4,500	4,500	4,500
				実績	4,104	5,350	5,114	－	－
		市展・写真展・文化祭への出品数							
	2	入場者数	人	目標	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000
				実績	3,733	3,374	3,086	－	－
		市展・写真展・文化祭への入場者数							

＜５．評価＞　ＣＨＥＣＫ

事業を取りまく社会環境の状況	美術展、写真展の出品や文化祭への参加は高齢者が多い。反面、働き盛りの世代や次代を担う子ども達の美術展、写真展の出品数は少ない。
これまでの見直しや改善等の経過	平成２９年度から美術展・写真展は運営に民間ノウハウを活かすため実行委員会方式へと移行し、市民による文化芸術の振興に努めた。また、美術展や写真展にＵ―３０奨励賞を設けるなど若年層の参加促進を図った。

項目別評価	評　価	評　価　理　由
妥当性（実施主体又は手段は妥当か）	■ Ａ．妥当である □ Ｂ．ほぼ妥当である □ Ｃ．あまり妥当ではない □ Ｄ．妥当ではない	大津市文化祭、美術展・写真展は市民・事業者・市の三者協働による実行委員会形式で運営しており、実施主体等は妥当である。
有効性（事業分析の「成果」欄に記載の成果は上がっているか）	□ Ａ．上がっている ■ Ｂ．やや上がっている □ Ｃ．あまり上がっていない □ Ｄ．上がっていない	市展・写真展・文化祭の入場者は天候不順等で減少したものの、市展等への出品数は昨年度と同程度であった。
効率性（事業手法は効率的であるか。）	□ Ａ．高い ■ Ｂ．やや高い □ Ｃ．やや低い □ Ｄ．低い	実行委員会方式で実施される当事業の経理基盤を支えるため、最小の経費の支出に抑えるとともに効率的な運営に努めた。
総合評価	■ １．計画どおり事業を進めることが適当　□ ２．事業の進め方に改善が必要 □ ３．事業規模や見直しが必要　□ ４．事業の抜本的見直しや廃止が必要	

施策への貢献度	■ Ａ．貢献している □ Ｂ．やや貢献している □ Ｃ．あまり貢献していない □ Ｄ．貢献していない	市民の主体的な文化活動へ支援を行い、日頃の活動成果を発表する場を提供することは、総合計画に掲げる「市民による文化・芸術の振興」につながり、貢献している。

＜６．今後の方向性＞　ＡＣＴＩＯＮ

方向性	■ 1.現状のまま継続　□ 2.見直しの上で継続　（ □ 2-1.拡充・重点化　□ 2-2.手段等の改善　□ 2-3.効率化 □ 2-4.簡素化・縮小　□ 2-5.統合　□ 2-6.その他　） □ 3.終期の設定　□ 4.終了（　）　□ 5.休止　□ 6.廃止 今後も、より多くの市民に文化活動の成果を発表・鑑賞する場を提供し、文化芸術への関心を高めるとともに、市民の自主的な文化活動の活性化を図っていく。
部局長コメント	美術展・写真展は、実行委員会による運営、連続開催、若年層向けの賞の新設など、効率的な手法や参加促進のための方策を取り入れてきた。引き続き、より多くの市民が文化に親しめる場を提供できるよう、新たな取組みなどについて実行委員会で検討し、総合計画に掲げる施策の推進に努められたい。

＜７．評価分析＞　※成果増減率、コスト増減率は対前年度比

区分		平成28年度	平成29年度	平成30年度
目標達成率	指標１	91.20 %	118.88 %	113.64 %
	指標２	74.66 %	67.48 %	61.72 %
成果増減率	指標１	－ %	+30.36 %	-4.41 %
	指標２	－ %	-9.61 %	-8.53 %
活動単位コスト	指標１	1 千円	0 千円	0 千円
	指標２	380 千円	274 千円	288 千円
成果単位コスト	指標１	4 千円	2 千円	2 千円
	指標２	5 千円	3 千円	4 千円
コスト増減率		－ %	-36.26 %	+7.53 %

平成31年度　事務事業評価シート

［平成30年度事後評価］

整理番号	50

部局名	市民部	所属名	文化・青少年課	所属長	吉田　美紀
事務事業名	00767　花登筐文芸奨励事業			記入者	河村　正人

＜1．基本事項＞

総合計画の位置付け	区分	コード	名称
	方針	02	自然、歴史、文化、スポーツを重視し、多くの人が集うまちを創り
	政策	04	スポーツと文化で、生き生きと楽しむまちにします
	施策	02	文化・芸術に親しめる環境づくり
	視点	01	文化・芸術の感動・創造・交流
	重事	01	市民による文化・芸術の振興

根拠法令等	文化芸術振興基本法
関連する個別計画	第２次大津市文化振興ビジョン、第２次大津市文化振興計画

関連事業	コード	事務事業名称	コード	所属名称

予算事業	会計	枠	事業種別	予算事業名	始期・終期
	一般会計	管理	評価対象事業	花登筐文芸奨励事業費	

事業の概要	本市出身の劇作家「花登筐」氏の業績を顕彰し、青少年の文芸活動を奨励するため、文芸作品を募集し、優秀作品を表彰すると共に優秀作品集を発刊する。（昭和６１年から実施） 平成２５年度より文芸奨励基金の原資を取り崩して事業を実施している。

運営方法	■ 直営　□ 指定管理者　□ 民間委託　□ 出資団体委託　□ 補助金交付　□ その他　（　　）

＜2．事業分析＞　ＰＬＡＮ

目的（何のために）	青少年の文芸活動を奨励するため
対象（何又は誰を）	市内に在住又は在学している小学生（４～６年生）、中学生、高校生を対象に
手段（どのようなやり方で）	広報おおつへの掲載や各学校の夏季休暇の課題等協力依頼により、作文、随筆、演劇シナリオ、小説の別に作品を募集し、優秀作品を表彰するとともに、優秀作品集を発刊することにより
成果（どのような状態にするのか）	青少年の文芸に対する親しみを深め、創作意欲を高めて文化振興への若い息吹きを育てていく。

＜3．経費＞　ＤＯ

		平成28年度 決算額(千円)	平成29年度 決算額(千円)	平成30年度 決算額(千円)	平成31年度 予算額(千円)	令和 2年度 見込額(千円)	備考
直接経費 Ａ		255	266	255	267	267	
人件費 Ｂ		425	632	636	636	636	
事業費合計 Ａ＋Ｂ		680	898	891	903	903	
事業費の財源内訳	国	0	0	0	0	0	
	県	0	0	0	0	0	
	起債	0	0	0	0	0	
	その他	255	266	255	267	267	
	一般財源	425	632	636	636	636	
職員数（人）		0.16	0.20	0.20	0.20	0.20	
職員数の内訳	正規	0.02	0.04	0.04	0.04	0.04	
	嘱託	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
	臨時	0.14	0.16	0.16	0.16	0.16	

＜4．指標＞　ＤＯ

		指標名	単位	目標・実績	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和 2年度
活動指標	1	作品募集依頼学校数	校	目標	71	71	71	71	71
				実績	71	71	71	－	－
		市内小・中・高等学校数							
	2	作品募集対象児童・生徒数	人	目標	30,000	30,000	30,000	30,000	30,000
				実績	30,672	30,982	30,125	－	－
		市内小学校（４～６年生）児童数、中・高等学校生徒数							
成果指標	1	作品応募数	点	目標	350	350	350	350	350
				実績	307	435	291	－	－
		応募のあった作品数							
	2	作品応募率	%	目標	1.1	1.1	1.1	1.1	1.1
				実績	1	1.4	1	－	－
		応募作品数／市内の小（４～６年）・中・高の児童生徒数×１００							

＜5．評価＞　ＣＨＥＣＫ

事業を取りまく社会環境の状況	情報技術の発展により青少年の活字離れが進んでいる。そのような中、青少年の創造性や思考力を育むことは非常に重要である。
これまでの見直しや改善等の経過	当事業は花登筐氏の冠事業であるため、表彰式では、花登筐氏を若い世代に周知するための工夫を行っている。

項目別評価	評　　価	評　　価　　理　　由
妥当性（実施主体又は手段は妥当か）	■ Ａ．妥当である □ Ｂ．ほぼ妥当である □ Ｃ．あまり妥当ではない □ Ｄ．妥当ではない	本市出身の花登筐氏からの基金を活用して市が主催で実施しており、実施主体等は妥当である。
有効性（事業分析の「成果」欄に記載の成果は上がっているか）	□ Ａ．上がっている ■ Ｂ．やや上がっている □ Ｃ．あまり上がっていない □ Ｄ．上がっていない	今年度は、成果指標である応募数は目標を下回ったが、児童・生徒の文芸活動を奨励し、創作意欲を高めている。
効率性（事業手法は効率的であるか。）	■ Ａ．高い □ Ｂ．やや高い □ Ｃ．やや低い □ Ｄ．低い	最小限の経費で実施するとともに、夏休みの課題として取り組んでもらえるよう広報活動の時期を工夫し応募数の増加に努めており、事業の効率性も高い。
総合評価	■ １．計画どおり事業を進めることが適当　□ ２．事業の進め方に改善が必要 □ ３．事業規模や見直しが必要　□ ４．事業の抜本的見直しや廃止が必要	

施策への貢献度	□ Ａ．貢献している ■ Ｂ．やや貢献している □ Ｃ．あまり貢献していない □ Ｄ．貢献していない	青少年が賞を励みに創作活動に取り組んだり同年代の優秀作品を見聞きする機会を提供することで、総合計画に掲げる「文化・芸術に親しめる環境づくり」に寄与している。

＜6．今後の方向性＞　ＡＣＴＩＯＮ

方向性	□ 1.現状のまま継続　□ 2.見直しの上で継続　（　□ 2-1.拡充・重点化　□ 2-2.手段等の改善　□ 2-3.効率化 □ 2-4.簡素化・縮小　□ 2-5.統合　□ 2-6.その他　） ■ 3.終期の設定　□ 4.終了（　　）　□ 5.休止　□ 6.廃止 本事業は青少年が文芸活動を通じて学び創作する場を提供する事業として定着している。しかしながら、文芸奨励基金残高が減少し事業が実施できなくなるため、事業終了も含め今後の方向性について、学校に丁寧に説明し意見を求めていく。
部局長コメント	本事業は本市出身の劇作家の功績を顕彰するとともに、青少年が文芸活動に取り組む機会を提供しており、総合計画に掲げる施策の推進を図るものであるが、今後の事業の方向性については、事業終了も含め、実施対象である学校から意見等を充分に聞き取ること。

＜7．評価分析＞　※成果増減率、コスト増減率は対前年度比

区　分		平成28年度	平成29年度	平成30年度
目標達成率	指標１	87.71 %	124.28 %	83.14 %
	指標２	90.90 %	127.27 %	90.90 %
成果増減率	指標１	－ %	+41.69 %	-33.10 %
	指標２	－ %	+40.00 %	-28.57 %
活動単位コスト	指標１	9 千円	12 千円	12 千円
	指標２	0 千円	0 千円	0 千円
成果単位コスト	指標１	2 千円	2 千円	3 千円
	指標２	680 千円	641 千円	891 千円
コスト増減率		－ %	-6.23 %	+43.60 %

平成31年度　事務事業評価シート　［平成30年度事後評価］

整理番号	51

部　局　名	市民部	所 属 名	文化・青少年課	所 属 長	吉田　美紀
事務事業名	00772 スカイプラザ浜大津管理運営事業			記 入 者	河村　正人

＜1．基本事項＞

総合計画の位置付け	区分	コード	名　　称
	方針	02	自然、歴史、文化、スポーツを重視し、多くの人が集うまちを創り
	政策	04	スポーツと文化で、生き生きと楽しむまちにします
	施策	02	文化・芸術に親しめる環境づくり
	視点	01	文化・芸術の感動・創造・交流
	重事	01	市民による文化・芸術の振興

根　拠 法令等	大津市スカイプラザ浜大津条例
関連する個別計画	第２次大津市文化振興ビジョン、第２次大津市文化振興計画

関連事業	コード	事　務　事　業　名　称	コード	所 属 名 称

予算事業	会　計	枠	事 業 種 別	予　算　事　業　名	始 期 ・ 終 期
	一般会計	管理	評価対象事業	スカイプラザ浜大津管理運営事業費	

事業の概　要	音楽・演劇その他市民の文化芸術活動の練習、発表の場となる拠点施設として、市民にとって利用しやすい施設の管理運営を行う。

運 営 方 法	□ 直営　■ 指定管理者　□ 民間委託　□ 出資団体委託　□ 補助金交付　□ その他　（　　）

＜2．事業分析＞　ＰＬＡＮ

目　的（何のために）	音楽や演劇を通して行われる市民の文化芸術活動の振興を図り、市民に親しみやすく文化活動の拠点となるため
対　象（何又は誰を）	利用者を対象に
手　段（どのようなやり方で）	リスニングルーム〝響〟等を利用したコンサートの実施など様々な事業を企画するとともに、学びの場を提供することで市民の文化芸術活動の拠点としての機能を充実させ、市民の多彩な文化活動を支援する。
成　果（どのような状態にするのか）	利用者が増加し、市民の交流の促進が図られ、幅広い世代の市民に親しまれる施設となる。

＜3．経費＞　ＤＯ

		平成28年度 決算額(千円)	平成29年度 決算額(千円)	平成30年度 決算額(千円)	平成31年度 予算額(千円)	令和 2年度 見込額(千円)	備　考
直接経費 Ａ		31,411	28,359	29,378	27,724	25,702	平成１９年度指定管理者制度開始
人 件 費 Ｂ		2,025	902	902	902	902	
事業費合計 Ａ＋Ｂ		33,436	29,261	30,280	28,626	26,604	
事業費の財源内訳	国	0	0	0	0	0	
	県	0	0	0	0	0	
	起　債	0	0	0	0	0	
	その他	0	0	0	0	0	
	一般財源	33,436	29,261	30,280	28,626	26,604	
職　員　数　（人）		0.25	0.11	0.11	0.11	0.11	
職員数の内訳	正　規	0.25	0.11	0.11	0.11	0.11	
	嘱　託	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
	臨　時	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	

＜4．指標＞　ＤＯ

		指　標　名	単　位	目標・実績	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和 2年度
活動指標	1	利用日数	日	目標	302	302	302	302	302
				実績	303	304	307	－	－
		利用日数							
	2	自主事業開催数	回	目標	22	22	22	22	22
				実績	12	34	17	－	－
		自主事業開催数（共催も含む）							
成果指標	1	スタジオ等利用件数	件	目標	7,200	7,200	7,200	7,200	7,200
				実績	7,539	6,993	7,141	－	－
		スタジオ等利用件数							
	2	自主事業参加者数	人	目標	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000
				実績	5,596	3,282	2,692	－	－
		事業参加者数							

＜5．評価＞　ＣＨＥＣＫ

事業を取りまく社会環境の状況	音楽、演劇など市民の文化芸術活動の拠点施設として気軽に利用できるため、年々、ニーズは高まっている。
これまでの見直しや改善等の経過	可能な限り利用者の要望に対応できるよう工夫することや、近江の春（旧ラ・フォル・ジュルネ）関連イベントやびわ湖大津秋の音楽祭に参画していくことを指定管理者に求めた。

項目別評価	評　　価	評　　価　　理　　由
妥当性（実施主体又は手段は妥当か）	■ Ａ．妥当である □ Ｂ．ほぼ妥当である □ Ｃ．あまり妥当ではない □ Ｄ．妥当ではない	市が実施主体であることで、低廉な価格で幅広い世代に利用され、活発に文化活動が行われていることから、妥当である。
有効性（事業分析の「成果」欄に記載の成果は上がっているか）	■ Ａ．上がっている □ Ｂ．やや上がっている □ Ｃ．あまり上がっていない □ Ｄ．上がっていない	工事でスタジオを一定期間閉鎖したことや、自主事業の精査を行った結果、自主事業参加者数は減少した。しかしながら、全体の利用者は依然として多く、スタジオ等利用件数は昨年度を上回り、有効性は高い。
効率性（事業手法は効率的であるか。）	■ Ａ．高い □ Ｂ．やや高い □ Ｃ．やや低い □ Ｄ．低い	指定管理者の民間ノウハウを活用した事業を展開するとともに経費の縮減に努めており、事業手法の効率性はやや高い。
総合評価	■ １．計画どおり事業を進めることが適当　□ ２．事業の進め方に改善が必要 □ ３．事業規模や見直しが必要　□ ４．事業の抜本的見直しや廃止が必要	

施策への貢献度	■ Ａ．貢献している □ Ｂ．やや貢献している □ Ｃ．あまり貢献していない □ Ｄ．貢献していない	多様な文化活動の場、人と人との交流の場として、文化振興に寄与するとともに、近江の春（旧ラ・フォル・ジュルネ）等の大型事業とタイアップした事業は中心市街地の活性化にも繋がっており、総合計画に掲げる「文化・芸術に親しめる環境づくり」に大きく貢献している。

＜6．今後の方向性＞　ＡＣＴＩＯＮ

方向性	■ 1.現状のまま継続　□ 2.見直しの上で継続　（ □ 2-1.拡充・重点化　□ 2-2.手段等の改善　□ 2-3.効率化 □ 2-4.簡素化・縮小　□ 2-5.統合　□ 2-6.その他　） □ 3.終期の設定　□ 4.終了（　　）　□ 5.休止　□ 6.廃止 今後も、利用者が増加し、市民の交流の促進が図られ、幅広い世代の市民に親しまれる施設となるよう指定管理者と協議し指導していく。
部局長コメント	指定管理者の民間ノウハウを活かした効率的な運営により、高い水準の稼働率を維持し、より多くの市民が気軽に親しめる文化活動の拠点となっている。引き続き、魅力ある事業を実施し、市民の文化交流が促進されるよう努められたい。

＜7．評価分析＞　※成果増減率、コスト増減率は対前年度比

区分		平成28年度	平成29年度	平成30年度
目標達成率	指標１	104.70 %	97.12 %	99.18 %
	指標２	111.92 %	65.64 %	53.84 %
成果増減率	指標１	－ %	-7.24 %	+2.11 %
	指標２	－ %	-41.35 %	-17.97 %
活動単位コスト	指標１	110 千円	96 千円	98 千円
	指標２	2,786 千円	860 千円	1,781 千円
成果単位コスト	指標１	4 千円	4 千円	4 千円
	指標２	5 千円	8 千円	11 千円
コスト増減率		－ %	+21.78 %	+13.74 %

平成31年度　事務事業評価シート　［平成30年度事後評価］

整理番号	52				
部　局　名	市民部	所 属 名	文化・青少年課	所 属 長	吉田　美紀
事務事業名	00776	大津市民会館管理事業		記 入 者	河村　正人

＜1．基本事項＞

総合計画の位置付け	区分	コード	名　　称	根　拠 法令等	大津市民会館条例
	方針	02	自然、歴史、文化、スポーツを重視し、多くの人が集うまちを創り	関連する 個別計画	第２次大津市文化振興ビジョン、第２次大津市文化振興計画
	政策	04	スポーツと文化で、生き生きと楽しむまちにします		
	施策	02	文化・芸術に親しめる環境づくり		
	視点	01	文化・芸術の感動・創造・交流		
	重事	01	市民による文化・芸術の振興		

関連事業	コード	事　務　事　業　名　称	コード	所 属 名 称

予算事業	会　計	枠	事 業 種 別	予　算　事　業　名	始 期 ・ 終 期
	一般会計	管理	評価対象事業	市民会館管理運営事業費	

事業の概　要	引き続き指定管理者のノウハウを活用した適正な運営に努めるとともに、市民主体の文化芸術活動を促進し、文化芸術に触れる場と機会の提供を目的とする。
運 営 方 法	□ 直営　■ 指定管理者　□ 民間委託　□ 出資団体委託　□ 補助金交付　□ その他　（　　）

＜2．事業分析＞　ＰＬＡＮ

目　的（何のために）	市民の文化・教養の向上と福祉の増進を図るため
対　象（何又は誰を）	市内外を問わない施設利用者を対象に
手　段（どのようなやり方で）	効果的、効率的な自主事業の展開および、会館内の施設・設備の適切な管理運営を行うことにより
成　果（どのような状態にするのか）	多くの市民や文化・芸術団体の利用促進を図るとともに、芸術性の高い発表・鑑賞の場を提供し、文化情報発信及び文化交流の拠点となる。

＜3．経費＞　ＤＯ

		平成28年度 決算額(千円)	平成29年度 決算額(千円)	平成30年度 決算額(千円)	平成31年度 予算額(千円)	令和 2年度 見込額(千円)	備　考
直接経費 Ａ		60,873	57,551	58,561	57,544	57,383	平成２０年指定管理者制度開始
人 件 費 Ｂ		2,025	1,230	1,230	1,230	1,230	
事業費合計 Ａ＋Ｂ		62,898	58,781	59,791	58,774	58,613	
事業費の財源内訳	国	0	0	0	0	0	
	県	0	0	0	0	0	
	起　債	0	0	0	0	0	
	その他	0	0	0	0	0	
	一般財源	62,898	58,781	59,791	58,774	58,613	
職　員　数　（人）		0.25	0.15	0.15	0.15	0.15	
職員数の内訳	正　規	0.25	0.15	0.15	0.15	0.15	
	嘱　託	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
	臨　時	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	

＜4．指標＞　ＤＯ

		指　標　名	単　位	目標・実績	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和 2年度
活動指標	1	利用件数	件	目標	300	300	300	300	300
				実績	250	276	291	－	－
		大・小ホールの利用件数							
	2	来場者数	人	目標	117,000	117,000	117,000	117,000	117,000
				実績	110,203	124,768	93,404	－	－
		大・小ホールの催しに来場した人数							
成果指標	1	会館利用率	%	目標	48	48	48	48	48
				実績	40	47.1	61.3	－	－
		大ホール利用件数÷大ホール貸館可能日数（点検、改修工事時は除く）×１００							
	2	来場者前年比	%	目標	100	100	100	100	100
				実績	101.9	113.2	74.9	－	－
		今年度来場者数÷前年度来場者×１００							

＜５．評価＞　ＣＨＥＣＫ

事業を取りまく社会環境の状況	市民の価値観が多様化する中、市民による主体的な文化芸術活動の発表の場や、ニーズに応じた文化芸術が鑑賞できる場が必要である。
これまでの見直しや改善等の経過	平成２８年度に指定管理者が交替した影響により初年度は会館利用率が落ち込んだことから、指定管理者に対するモニタリング調査を強化し利用率改善のための協議を重ねた。

項目別評価	評　価	評　価　理　由
妥当性（実施主体又は手段は妥当か）	■ Ａ．妥当である □ Ｂ．ほぼ妥当である □ Ｃ．あまり妥当ではない □ Ｄ．妥当ではない	市が実施主体であることで、低廉な価格で幅広い世代に利用され、活発に文化活動が行われていることから、妥当である。
有効性（事業分析の「成果」欄に記載の成果は上がっているか）	■ Ａ．上がっている □ Ｂ．やや上がっている □ Ｃ．あまり上がっていない □ Ｄ．上がっていない	近隣施設との役割のすみ分けを意識し芸術性の高い事業を実施している。来場者数は減っているものの、これは工事のために小ホールを長期間閉館したためであり、有効性は高い。
効率性（事業手法は効率的であるか。）	□ Ａ．高い ■ Ｂ．やや高い □ Ｃ．やや低い □ Ｄ．低い	指定管理者の民間ノウハウを活用するとともに経費の縮減に努めており、事業効率性は高い。
総合評価	■ １．計画どおり事業を進めることが適当　□ ２．事業の進め方に改善が必要 □ ３．事業規模や見直しが必要　□ ４．事業の抜本的見直しや廃止が必要	

施策への貢献度	■ Ａ．貢献している □ Ｂ．やや貢献している □ Ｃ．あまり貢献していない □ Ｄ．貢献していない	市民の幅広いジャンルの文化芸術を発表・鑑賞できる場を提供しており、本市の文化振興の拠点として、総合計画に掲げる「文化・芸術に親しめる環境づくり」に貢献している。

＜６．今後の方向性＞　ＡＣＴＩＯＮ

方向性	■ 1.現状のまま継続　□ 2.見直しの上で継続　（ □ 2-1.拡充・重点化　□ 2-2.手段等の改善　□ 2-3.効率化 □ 2-4.簡素化・縮小　□ 2-5.統合　□ 2-6.その他　） □ 3.終期の設定　□ 4.終了（　）　□ 5.休止　□ 6.廃止 今後も多くの市民や文化・芸術団体の利用促進を図るとともに、芸術性の高い発表・鑑賞の場を提供し、文化情報発信及び文化交流の拠点となるよう指定管理者と協議し指導していく。
部局長コメント	指定管理者の民間ノウハウを活かした効率的な施設運営を図るとともに、第２次文化振興計画に掲げる回遊型コラボレーション事業の実施にも取り組まれた。引き続き、文化芸術の拠点施設として、市民の文化・教養の向上のため、魅力ある事業の展開に努められたい。

＜７．評価分析＞　※成果増減率、コスト増減率は対前年度比

区分		平成28年度	平成29年度	平成30年度
目標達成率	指標１	83.33 %	98.12 %	127.70 %
	指標２	101.90 %	113.20 %	74.90 %
成果増減率	指標１	－ %	+17.75 %	+30.14 %
	指標２	－ %	+11.08 %	−33.83 %
活動単位コスト	指標１	251 千円	212 千円	205 千円
	指標２	0 千円	0 千円	0 千円
成果単位コスト	指標１	1,572 千円	1,248 千円	975 千円
	指標２	617 千円	519 千円	798 千円
コスト増減率		－ %	−18.25 %	+15.94 %

平成31年度　事務事業評価シート　［平成30年度事後評価］

整理番号	53

部　局　名	市民部	所 属 名	文化・青少年課	所 属 長	吉田　美紀
事務事業名	00778　文化振興事業			記 入 者	河村　正人

＜1．基本事項＞

総合計画の位置付け	区分	コード	名　　称
	方針	02	自然、歴史、文化、スポーツを重視し、多くの人が集うまちを創り
	政策	04	スポーツと文化で、生き生きと楽しむまちにします
	施策	02	文化・芸術に親しめる環境づくり
	視点	01	文化・芸術の感動・創造・交流
	重事	01	市民による文化・芸術の振興

根　拠 法令等	文化芸術振興基本法
関連する個別計画	第２次大津市文化振興ビジョン　第２次大津市文化振興計画

関連事業	コード	事　務　事　業　名　称	コード	所 属 名 称

予算事業	会　計	枠	事 業 種 別	予　算　事　業　名	始 期 ・ 終 期
	一般会計	政策	評価対象事業	文化振興事業費	

事業の概　要	「大津市文化振興計画」に基づき、湖都文化の総合的な文化振興の施策を推進するため、身近な文化の創造の場をつくり、誰もが参加しやすい機会を設けることにより、人と人との交流を生み、地域の活性化に大きな役割を果たすよう努める。また、市民が自主的に展開している文化活動への支援として、文化連盟などの団体に対する補助金の交付や、申請に基づく後援名義の承認等を行っている。
運 営 方 法	■ 直営　□ 指定管理者　□ 民間委託　□ 出資団体委託　■ 補助金交付　□ その他　（　　）

＜2．事業分析＞　ＰＬＡＮ

目　的（何のために）	市民が自主的に展開している文化活動を支援するために
対　象（何又は誰を）	団体及び市民等を対象に
手　段（どのようなやり方で）	文化連盟等の文化活動に対して補助金等を交付するとともに、文化の催しに対する後援名義の使用承認や賞の交付を行い
成　果（どのような状態にするのか）	自主的な文化活動の促進、充実を図る。

＜3．経費＞　ＤＯ

		平成28年度 決算額(千円)	平成29年度 決算額(千円)	平成30年度 決算額(千円)	平成31年度 予算額(千円)	令和 2年度 見込額(千円)	備　考
直接経費 Ａ		4,666	2,633	2,118	2,270	2,270	
人 件 費 Ｂ		8,577	5,709	6,227	6,227	6,227	
事業費合計 Ａ＋Ｂ		13,243	8,342	8,345	8,497	8,497	
事業費の財源内訳	国	0	0	0	0	0	
	県	0	0	0	0	0	
	起　債	0	0	0	0	0	
	その他	1	1	341	601	1	雑入、湖都大津まちづくり寄附金
	一般財源	13,242	8,341	8,004	7,896	8,496	
職　員　数（人）		1.75	1.38	1.44	1.44	1.44	
職員数の内訳	正　規	0.85	0.49	0.55	0.55	0.55	
	嘱　託	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
	臨　時	0.90	0.89	0.89	0.89	0.89	

＜4．指標＞　ＤＯ

		指　標　名	単　位	目標・実績	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和 2年度
活動指標	1	共催・補助事業数	事業	目標	6	6	6	6	6
				実績	6	6	6	－	－
		文化活動等に対する共催・補助事業数							
	2	後援名義使用承認及び賞交付件数	件	目標	175	175	175	175	175
				実績	164	149	156	－	－
		後援名義の使用承認数（及び賞を交付した件数）							
成果指標	1	共催・補助した文化活動（催し等）への参加者数	人	目標	35,000	35,000	35,000	35,000	35,000
				実績	39,460	31,574	43,857	－	－
		補助した団体等が行っている文化活動（催し等）の参加者数							
	2	後援した文化・芸術事業への参加者数	人	目標	172,000	172,000	172,000	172,000	172,000
				実績	123,467	159,207	126,767	－	－
		後援名義の使用を承認した催し等の入場者数							

＜５．評価＞　ＣＨＥＣＫ

事業を取りまく社会環境の状況	核家族化・共働き世帯の増加、高度情報化により、働く世代や子ども・若者の文化活動への参加が難しくなってきている。
これまでの見直しや改善等の経過	市ホームページに後援を許可した文化事業を掲載し、働く世代や若年層への情報発信に努めている。また、第２次文化振興計画に基づく新たな事業の実施にも努めた。

項目別評価	評　価	評　価　理　由
妥当性（実施主体又は手段は妥当か）	■ Ａ．妥当である □ Ｂ．ほぼ妥当である □ Ｃ．あまり妥当ではない □ Ｄ．妥当ではない	市民の主体的な文化活動に対して市が支援し、文化活動の裾野を広げることに繋がったため妥当である。
有効性（事業分析の「成果」欄に記載の成果は上がっているか）	□ Ａ．上がっている ■ Ｂ．やや上がっている □ Ｃ．あまり上がっていない □ Ｄ．上がっていない	市が後援した市民による多様な文化活動の参加者数は昨年度に比べ減少しているものの、共催・補助した文化活動への参加者数は増加しており、有効性は高い。
効率性（事業手法は効率的であるか。）	■ Ａ．高い □ Ｂ．やや高い □ Ｃ．やや低い □ Ｄ．低い	市民の主体的な文化活動に対し市が側面的に支援し、直接経費の縮減にも努めたため効率性は高い。
総合評価	■ １．計画どおり事業を進めることが適当　□ ２．事業の進め方に改善が必要 □ ３．事業規模や見直しが必要　□ ４．事業の抜本的見直しや廃止が必要	

施策への貢献度	■ Ａ．貢献している □ Ｂ．やや貢献している □ Ｃ．あまり貢献していない □ Ｄ．貢献していない	市民の主体的な文化活動を支援することで市民文化の香り豊かなまちづくりに寄与しており、総合計画に掲げる「市民による文化・芸術の振興」にも貢献している。

＜６．今後の方向性＞　ＡＣＴＩＯＮ

方向性	■ 1.現状のまま継続　□ 2.見直しの上で継続　（ □ 2-1.拡充・重点化　□ 2-2.手段等の改善　□ 2-3.効率化 □ 2-4.簡素化・縮小　□ 2-5.統合　□ 2-6.その他　） □ 3.終期の設定　□ 4.終了（　）　□ 5.休止　□ 6.廃止
	引き続き、市民による文化芸術事業への支援を行うとともに、第２次文化振興計画に基づく回遊型コラボレーション事業として各文化施設をつなぐ取組みを実施し、総合計画に掲げる施策「文化・芸術に親しめる環境づくり」の推進に努めて行く。
部局長コメント	引き続き、市民による文化芸術事業への支援を行うとともに、第２次文化振興計画に掲げる回遊型コラボレーション事業等の充実を図り、総合計画に掲げる「文化・芸術に親しめる環境づくり」の推進に努めていくこと。

＜７．評価分析＞　※成果増減率、コスト増減率は対前年度比

区分		平成28年度	平成29年度	平成30年度
目標達成率	指標１	112.74 %	90.21 %	125.30 %
	指標２	71.78 %	92.56 %	73.70 %
成果増減率	指標１	－ %	-19.98 %	+38.90 %
	指標２	－ %	+28.94 %	-20.37 %
活動単位コスト	指標１	2,207 千円	1,390 千円	1,390 千円
	指標２	80 千円	55 千円	53 千円
成果単位コスト	指標１	0 千円	0 千円	0 千円
	指標２	0 千円	0 千円	0 千円
コスト増減率		－ %	-36.20 %	-1.17 %

平成31年度　事務事業評価シート　［平成30年度事後評価］

整理番号	56				
部　局　名	市民部	所 属 名	市民文化会館	所 属 長	高野早人
事務事業名	00773 市民文化会館管理運営事業			記 入 者	和田　光生

＜1．基本事項＞

総合計画の位置付け	区分	コード	名　　称	根　拠 法令等	市民文化会館の設置及び管理に関する条例
	方針	02	自然、歴史、文化、スポーツを重視し、多くの人が集うまちを創り	関連する個別計画	大津市文化振興ビジョン 大津市文化振興計画
	政策	04	スポーツと文化で、生き生きと楽しむまちにします		
	施策	02	文化・芸術に親しめる環境づくり		
	視点	01	文化・芸術の感動・創造・交流		
	重事	01	市民による文化・芸術の振興		

関連事業	コード	事　務　事　業　名　称	コード	所 属 名 称

予算事業	会　計	枠	事 業 種 別	予　算　事　業　名	始 期 ・ 終 期
	一般会計	管理	評価対象事業	市民文化会館管理運営事業費	

事業の概　要	市民が低料金で安全かつ快適に文化活動ができるよう、施設の管理運営等を行っている。
運 営 方 法	■ 直営　□ 指定管理者　□ 民間委託　□ 出資団体委託　□ 補助金交付　□ その他　（　　）

＜2．事業分析＞　ＰＬＡＮ

目　的（何のために）	市民に文化活動の場を提供する一方で、生涯学習の活動にも寄与する。
対　象（何又は誰を）	市民一般及び各種文化団体・サークル等
手　段（どのようなやり方で）	低料金で安全かつ快適に文化活動ができるよう、施設の管理を行う。
成　果（どのような状態にするのか）	市民の文化の拠点施設として、市民を中心とした文化振興活動がより活発となるよう推進する。

＜3．経費＞　ＤＯ

		平成28年度 決算額(千円)	平成29年度 決算額(千円)	平成30年度 決算額(千円)	平成31年度 予算額(千円)	令和 2年度 見込額(千円)	備　考
直接経費 Ａ		10,694	9,625	8,951	9,060	9,780	
人 件 費 Ｂ		10,618	10,755	9,191	9,683	9,683	
事業費合計 Ａ＋Ｂ		21,312	20,380	18,142	18,743	19,463	
事業費の財源内訳	国	0	0	0	0	0	
	県	0	0	0	0	0	
	起　債	0	0	0	0	0	
	その他	5,007	5,054	4,601	4,068	4,100	
	一般財源	16,305	15,326	13,541	14,675	15,363	
職　員　数　（人）		2.78	2.78	2.72	2.78	2.78	
職員数の内訳	正　規	0.51	0.51	0.45	0.51	0.51	
	嘱　託	2.00	2.00	1.00	1.00	1.00	
	臨　時	0.27	0.27	1.27	1.27	1.27	

＜4．指標＞　ＤＯ

		指　標　名	単　位	目標・実績	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和 2年度
活動指標	1	貸室利用件数	件数	目標	900	900	900	900	0
				実績	890	793	806	－	－
		多目的ホール・会議室・和室の年間利用件数							
	2			目標					
				実績					
成果指標	1	貸室利用件数目標達成率	%	目標	100	100	100	100	0
				実績	99	88	90	－	－
		貸室利用件数（実績）÷貸室利用件数（目標）							
	2			目標					
				実績					

＜５．評価＞　ＣＨＥＣＫ

事業を取りまく社会環境の状況	市民団体の芸術文化活動（ダンス・書道・絵画等）をはじめ、市民の自発的活動は活発であり、文化会館の高い稼働率がそれを物語っている。また、市の公的な会議の会場としても利用されている。
これまでの見直しや改善等の経過	新電力に変更するなど、光熱水費の削減に努めている。２９年度まで嘱託２名であったところを、１名を臨時職員に変更した。

項目別評価	評　価	評　価　理　由
妥当性（実施主体又は手段は妥当か）	■ Ａ．妥当である □ Ｂ．ほぼ妥当である □ Ｃ．あまり妥当ではない □ Ｄ．妥当ではない	ダンスや書道・絵画・音楽など市民の多様な文化活動に応え、市役所に近いことから行政の会議にも適当な場所として利用されており、市が主体的に運営することは妥当である。
有効性（事業分析の「成果」欄に記載の成果は上がっているか）	□ Ａ．上がっている ■ Ｂ．やや上がっている □ Ｃ．あまり上がっていない □ Ｄ．上がっていない	多目的ホールは高い稼働率を維持しており、施設の有効性を示している。
効率性（事業手法は効率的であるか。）	■ Ａ．高い □ Ｂ．やや高い □ Ｃ．やや低い □ Ｄ．低い	嘱託１名、臨時１名で日常の運営を行ない、新電力の導入、可能な範囲での改修を進め、安心して利用できる環境を整えるように努めている。
総合評価	■ １．計画どおり事業を進めることが適当　□ ２．事業の進め方に改善が必要 □ ３．事業規模や見直しが必要　□ ４．事業の抜本的見直しや廃止が必要	

施策への貢献度	■ Ａ．貢献している □ Ｂ．やや貢献している □ Ｃ．あまり貢献していない □ Ｄ．貢献していない	市民の自発的な文化活動を支えるとともに、行政の会議にも利用されており、行政の情報発信の場としても貢献している。

＜６．今後の方向性＞　ＡＣＴＩＯＮ

方向性	■ 1.現状のまま継続　□ 2.見直しの上で継続　（　□ 2-1.拡充・重点化　□ 2-2.手段等の改善　□ 2-3.効率化 □ 2-4.簡素化・縮小　□ 2-5.統合　□ 2-6.その他　） □ 3.終期の設定　□ 4.終了（　）　□ 5.休止　□ 6.廃止 市役所に近いことから、公的会議の場として有効な施設である。また市民の活発な文化活動を支える場として、今後もより利用しやすい環境を維持し、さまざまな活動に貢献できるように努める。
部局長コメント	多目的ホールを中心に、稼働率は安定しており、市民の多様な文化活動を支える施設として定着している。とくにスポーツ系の活動では、市民の健康維持にも役立っている。今後も幅広い世代がさまざまな活動を展開できるよう、施設の管理に努める。

＜７．評価分析＞　※成果増減率、コスト増減率は対前年度比

区分		平成28年度	平成29年度	平成30年度
目標達成率	指標１	99.00 %	88.00 %	90.00 %
	指標２	－ %	－ %	－ %
成果増減率	指標１	－ %	-11.11 %	+2.27 %
	指標２	－ %	%	%
活動単位コスト	指標１	23 千円	25 千円	22 千円
	指標２	－ 千円	－ 千円	－ 千円
成果単位コスト	指標１	215 千円	231 千円	201 千円
	指標２	－ 千円	－ 千円	－ 千円
コスト増減率		－ %	+7.58 %	-12.95 %

平成31年度　事務事業評価シート　［平成30年度事後評価］

整理番号	57				
部　局　名	市民部	所 属 名	長等創作展示館	所 属 長	池田　勝三
事務事業名	00771	長等創作展示館維持管理運営事業		記 入 者	林　栄子

＜1．基本事項＞

総合計画の位置付け	区分	コード	名　　称	根　拠 法令等	大津市創作展示館条例
	方針	02	自然、歴史、文化、スポーツを重視し、多くの人が集うまちを創り		
	政策	04	スポーツと文化で、生き生きと楽しむまちにします		
	施策	02	文化・芸術に親しめる環境づくり	関連する 個別計画	大津市文化振興ビジョン 大津市文化振興計画
	視点	01	文化・芸術の感動・創造・交流		
	重事	01	市民による文化・芸術の振興		

関連事業	コード	事　務　事　業　名　称	コード	所 属 名 称

予算事業	会　計	枠	事 業 種 別	予　算　事　業　名	始 期 ・ 終 期
	一般会計	管理	評価対象事業	長等創作展示館管理運営事業費	

事業の概　要	長等の豊かな自然と歴史文化の中で美術工芸品等を鑑賞及び創作する場を提供するため、陶芸教室等各種講座を開設するなど、創作展示館として運営する。
運 営 方 法	■ 直営　□ 指定管理者　□ 民間委託　□ 出資団体委託　□ 補助金交付　□ その他　（　　）

＜2．事業分析＞　ＰＬＡＮ

目　的 （何のために）	全ての市民が主体的に文化に触れ、学び、創作する場と機会を提供し、湖都文化の発展に寄与するため。
対　象 （何又は誰を）	市民等来館者
手　段 （どのようなやり方で）	陶芸教室等各種講座の開設、創作スペースの貸出しなどを行う。
成　果 （どのような状態にするのか）	多くの市民に鑑賞及び創作する場と機会を提供し、心豊かで潤いのある市民生活や、個性豊かで活力あふれる地域社会を創造する。

＜3．経費＞　ＤＯ

		平成28年度 決算額(千円)	平成29年度 決算額(千円)	平成30年度 決算額(千円)	平成31年度 予算額(千円)	令和 2年度 見込額(千円)	備　考
直接経費 Ａ		5,031	7,835	4,948	3,046	3,046	
人 件 費 Ｂ		24,970	24,230	24,080	24,780	21,230	
事業費合計 Ａ＋Ｂ		30,001	32,065	29,028	27,826	24,276	
事業費の財源内訳	国	0	0	0	0	0	
	県	0	0	0	0	0	
	起　債	0	0	0	0	0	
	その他	3,089	3,318	3,380	1,605	1,704	
	一般財源	26,912	28,747	25,648	26,221	22,572	
職　員　数　（人）		5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	
職員数の内訳	正　規	3.00	3.00	3.00	3.00	2.00	
	嘱　託	1.00	1.00	1.00	1.00	2.00	
	臨　時	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	

＜4．指標＞　ＤＯ

		指　標　名	単　位	目標・実績	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和 2年度
活動指標	1	特別展等開催数（展示替数）	回	目標	4	3	3	3	0
				実績	3	3	3	－	－
		常設展示室での特別展開催数もしくは展示物の変更回数							
	2	講座開催数 （Ｈ３１～貸室使用件数に変更）	件	目標	50	50	50	150	150
				実績	57	64	52	－	－
		陶芸教室等、各種講座開催　平成３１年度より主催講座廃止により貸室使用件数に変更する。							
成果指標	1	入館者数	人	目標	3,500	3,000	3,000	2,500	2,500
				実績	2,221	2,519	2,518	－	－
		常設展示への入館者数							
	2	講座参加者数 （Ｈ３１～貸室使用者数に変更）	人	目標	2,000	2,000	2,000	2,500	2,500
				実績	1,845	1,971	2,152	－	－
		各種講座参加者数。Ｈ３１年度より主催講座廃止により貸室使用者数に変更する。							

＜５．評価＞　ＣＨＥＣＫ

事業を取りまく社会環境の状況	市民生活の原点である共存の心、豊かな感性を育む環境を提供する文化施設は、人間関係の希薄化している現在社会において必要な施設である。
これまでの見直しや改善等の経過	創作室においては、市民ニーズに応じた主催講座を企画し、受講者の増加が図れたが費用対効果を考慮すれば更なる改革が必要である。展示室においては、定期的に展示替を行うほか随時新企画を実施し集客を図っている。

項目別評価	評　価	評　価　理　由
妥当性（実施主体又は手段は妥当か）	□ Ａ．妥当である ■ Ｂ．ほぼ妥当である □ Ｃ．あまり妥当ではない □ Ｄ．妥当ではない	教室の受講者は幼児から小学生、年配者と幅広く受講されており、市民の文化、芸術に親しめる環境づくりに寄与している。また、美術館の来館者は６５％が市外からの来館者であり、観光都市の一翼も担っている。
有効性（事業分析の「成果」欄に記載の成果は上がっているか）	□ Ａ．上がっている ■ Ｂ．やや上がっている □ Ｃ．あまり上がっていない □ Ｄ．上がっていない	創作室の稼働率は高い水準（稼働率６０％）であり、講座受講者も増加し、豊かな市民生活に貢献している。
効率性（事業手法は効率的であるか。）	□ Ａ．高い ■ Ｂ．やや高い □ Ｃ．やや低い □ Ｄ．低い	集客のため美術館内でミニコンサート及び三橋節子ゆかりの方によるギャラリートーク等を随時実施、創作室では市民ニーズに適応した講座の開催など効果的な事業を推進している。
総合評価	□ １．計画どおり事業を進めることが適当　■ ２．事業の進め方に改善が必要 □ ３．事業規模や見直しが必要　□ ４．事業の抜本的見直しや廃止が必要	

施策への貢献度	■ Ａ．貢献している □ Ｂ．やや貢献している □ Ｃ．あまり貢献していない □ Ｄ．貢献していない	人間愛、親子愛をテーマとしている絵画を鑑賞すること、同じ趣味を持った仲間と集う場所を提供することにより、豊かな感性を育み、潤いのある市民生活を営むことに貢献している。

＜６．今後の方向性＞　ＡＣＴＩＯＮ

方向性	□ 1.現状のまま継続　■ 2.見直しの上で継続　（ □ 2-1.拡充・重点化　□ 2-2.手段等の改善　■ 2-3.効率化 □ 2-4.簡素化・縮小　□ 2-5.統合　□ 2-6.その他　） □ 3.終期の設定　□ 4.終了（　）　□ 5.休止　□ 6.廃止 多くの市民に鑑賞及び創作する場と機会を提供し、豊かな心を持つ人間形成に必要な施設であるが、費用対効果を念頭に講座のあり方を検討する。
部局長コメント	常設展示室の展示替えのほか、各種講座の充実、フェイスブック活用など多彩な情報発信にも努めており、特に創作スペースの利用促進に繋げているが、更なる費用対効果を図り、他の公共施設との連携を模索しつつ、市民の文化創作活動の場として事業の展開に取り組み、心豊かな潤いある市民生活に寄与すること。

＜７．評価分析＞　※成果増減率、コスト増減率は対前年度比

区分		平成28年度	平成29年度	平成30年度
目標達成率	指標１	63.45 %	83.96 %	83.93 %
	指標２	92.25 %	98.55 %	107.60 %
成果増減率	指標１	－ %	+13.41 %	-0.03 %
	指標２	－ %	+6.82 %	+9.18 %
活動単位コスト	指標１	10,000 千円	10,688 千円	9,676 千円
	指標２	526 千円	501 千円	558 千円
成果単位コスト	指標１	13 千円	12 千円	11 千円
	指標２	16 千円	16 千円	13 千円
コスト増減率		－ %	-2.86 %	-13.25 %

平成31年度　事務事業評価シート　［平成30年度事後評価］

整理番号	58

部局名	市民部	所属名	仰木太鼓会館	所属長	正木　充夫
事務事業名	00775 仰木太鼓会館管理運営事業			記入者	正木　充夫

＜1．基本事項＞

総合計画の位置付け	区分	コード	名称
	方針	02	自然、歴史、文化、スポーツを重視し、多くの人が集うまちを創り
	政策	04	スポーツと文化で、生き生きと楽しむまちにします
	施策	02	文化・芸術に親しめる環境づくり
	視点	01	文化・芸術の感動・創造・交流
	重事	99	その他

根拠法令等	大津市仰木太鼓会館条例
関連する個別計画	大津市文化振興ビジョン・大津市文化振興計画

関連事業	コード	事務事業名称	コード	所属名称

予算事業	会計	枠	事業種別	予算事業名	始期・終期
	一般会計	管理	評価対象事業	仰木太鼓会館管理運営事業費	

事業の概要	仰木太鼓会館は、大津市指定無形民俗文化財である仰木太鼓の保存と活用を図り、地域の歴史および文化の理解を深める場として設置されたもので、仰木太鼓の練習や住民の集会等に活用されるよう施設の適正な管理を行っている。
運営方法	■ 直営　□ 指定管理者　■ 民間委託　□ 出資団体委託　□ 補助金交付　□ その他　（　　）

＜2．事業分析＞　ＰＬＡＮ

目的（何のために）	大津市指定無形民俗文化財である仰木太鼓の保存と活用を図る場の提供
対象（何又は誰を）	市民一般
手段（どのようなやり方で）	施設の適正な管理等、仰木太鼓の練習、住民の集会等のための場所の提供に関する事業を行う
成果（どのような状態にするのか）	大津市指定無形民俗文化財である仰木太鼓が継承されるとともに、仰木地域の歴史及び文化への理解が深まり、市民文化が向上する

＜3．経費＞　ＤＯ

		平成28年度決算額(千円)	平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	平成31年度予算額(千円)	令和 2年度見込額(千円)	備考
直接経費 Ａ		2,121	2,300	2,504	2,096	2,026	
人件費 Ｂ		939	1,426	1,430	1,535	820	
事業費合計 Ａ＋Ｂ		3,060	3,726	3,934	3,631	2,846	
事業費の財源内訳	国	0	0	0	0	0	
	県	0	0	0	0	0	
	起債	0	0	0	0	0	
	その他	69	56	69	50	50	
	一般財源	2,991	3,670	3,865	3,581	2,796	
職員数（人）		0.20	0.30	0.30	0.25	0.10	
職員数の内訳	正規	0.10	0.10	0.10	0.15	0.10	
	嘱託	0.10	0.20	0.20	0.10	0.00	
	臨時	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	

＜4．指標＞　ＤＯ

		指標名	単位	目標・実績	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和 2年度
活動指標	1	施設利用件数	件	目標	270	270	270	270	270
				実績	249	209	206	－	－
		年間利用件数（実績）							
	2	施設利用人数	人	目標	9,500	9,500	9,500	9,500	9,500
				実績	8,919	7,757	7,042	－	－
		年間利用人数（実績）							
成果指標	1	年間利用件数率	%	目標	100	100	100	100	100
				実績	92.2	77.4	76.2	－	－
		年間利用件数（実績）÷年間利用件数（目標）×１００							
	2	年間利用人数率	%	目標	100	100	100	100	100
				実績	93.9	81.6	74.1	－	－
		年間利用人数（実績）÷年間利用人数（目標）×１００							

＜5．評価＞　ＣＨＥＣＫ

事業を取りまく社会環境の状況	地域の活力を呼び戻し、誇りの持てるまちづくりを目指して、太鼓会館隣接地を自治連合会が取得し、仰木地区中山間地域活性化事業が進められている。
これまでの見直しや改善等の経過	仰木太鼓保存会に関する利用を優先しつつ、住民の福祉向上に寄与する利用など、会館利用の広報活動を行い、利用率の向上に努めている。近隣住民からの太鼓の音の苦情は現在は収まっている。

項目別評価	評　価	評　価　理　由
妥当性（実施主体又は手段は妥当か）	■ Ａ．妥当である □ Ｂ．ほぼ妥当である □ Ｃ．あまり妥当ではない □ Ｄ．妥当ではない	市指定無形民族文化財である仰木太鼓の保存と活用を図り、地域文化の発信施設、住民交流の拠点であることから市が実施主体で妥当である。
有効性（事業分析の「成果」欄に記載の成果は上がっているか）	□ Ａ．上がっている ■ Ｂ．やや上がっている □ Ｃ．あまり上がっていない □ Ｄ．上がっていない	地域住民が歴史や文化を継承し、活気ある地域文化を高めるために、有効な場の提供である。
効率性（事業手法は効率的であるか。）	□ Ａ．高い ■ Ｂ．やや高い □ Ｃ．やや低い □ Ｄ．低い	地域による管理運営を委託しており、効率的な経費支出が図られている。
総合評価	■ １．計画どおり事業を進めることが適当　□ ２．事業の進め方に改善が必要 □ ３．事業規模や見直しが必要　□ ４．事業の抜本的見直しや廃止が必要	

施策への貢献度	□ Ａ．貢献している ■ Ｂ．やや貢献している □ Ｃ．あまり貢献していない □ Ｄ．貢献していない	地域文化の拠点となっており、地域住民のふれあいの場となっている。

＜6．今後の方向性＞　ＡＣＴＩＯＮ

方向性	■ 1.現状のまま継続　□ 2.見直しの上で継続　（　□ 2-1.拡充・重点化　□ 2-2.手段等の改善　□ 2-3.効率化 □ 2-4.簡素化・縮小　□ 2-5.統合　□ 2-6.その他　） □ 3.終期の設定　□ 4.終了（　）　□ 5.休止　□ 6.廃止 大津市無形民族文化財である仰木太鼓の保存と活用を推進するために仰木太鼓保存会との連携を図るとともに、地域住民の利用を促進するため、地域関係団体への積極的な広報活動を通じて、会館利用率の向上を図る。
部局長コメント	施設設置の目的を踏まえ、大津市指定無形民族文化財である仰木太鼓の保存と活用を進め、伝統文化を次世代に継承する活動を促すとともに、地域に根ざした交流の拠点施設として運用していくこと。

＜7．評価分析＞　※成果増減率、コスト増減率は対前年度比

区分		平成28年度	平成29年度	平成30年度
目標達成率	指標１	92.20 %	77.40 %	76.20 %
	指標２	93.90 %	81.60 %	74.10 %
成果増減率	指標１	－ %	-16.05 %	-1.55 %
	指標２	－ %	-13.09 %	-9.19 %
活動単位コスト	指標１	12 千円	17 千円	19 千円
	指標２	0 千円	0 千円	0 千円
成果単位コスト	指標１	33 千円	48 千円	51 千円
	指標２	32 千円	45 千円	53 千円
コスト増減率		－ %	+42.57 %	+11.75 %

平成31年度　事務事業評価シート

［平成30年度事後評価］

整理番号	54

部　局　名	市民部	所 属 名	文化・青少年課	所 属 長	吉田　美紀
事務事業名	00774 伝統芸能会館管理運営事業			記 入 者	河村　正人

＜1．基本事項＞

総合計画の位置付け	区分	コード	名　　称
	方針	02	自然、歴史、文化、スポーツを重視し、多くの人が集うまちを創り
	政策	04	スポーツと文化で、生き生きと楽しむまちにします
	施策	02	文化・芸術に親しめる環境づくり
	視点	99	その他
	重事	99	その他

根　拠 法令等	大津市伝統芸能会館条例
関連する 個別計画	第２次大津市文化振興ビジョン、第２次大津市文化振興計画

関連事業	コード	事　務　事　業　名　称	コード	所 属 名 称

予算事業	会　計	枠	事 業 種 別	予　算　事　業　名	始 期 ・ 終 期
	一般会計	管理	評価対象事業	伝統芸能会館管理運営事業費	

事業の概　要	能楽をはじめ邦楽、舞踊並びに茶道、華道その他の伝統芸能に係る創造、練習、鑑賞などを通して、芸能文化の伝承と創造、発信を図っている。

運 営 方 法	□ 直営　■ 指定管理者　□ 民間委託　□ 出資団体委託　□ 補助金交付　□ その他　（　　）

＜2．事業分析＞　ＰＬＡＮ

目　的（何のために）	伝統芸能の普及と啓発のため
対　象（何又は誰を）	利用者を対象に
手　段（どのようなやり方で）	市民の伝統芸能活動の拠点としての施設を充実させ、能や狂言等の自主事業の開催及び市民団体への貸館事業を行うことにより
成　果（どのような状態にするのか）	伝統芸能活動を通じての市民文化を向上させる。

＜3．経費＞　ＤＯ

		平成28年度 決算額(千円)	平成29年度 決算額(千円)	平成30年度 決算額(千円)	平成31年度 予算額(千円)	令和 2年度 見込額(千円)	備　考
直接経費 Ａ		19,610	20,856	18,999	16,645	16,478	平成１９年度指定管理者制度開始
人 件 費 Ｂ		2,025	902	902	902	902	
事業費合計 Ａ＋Ｂ		21,635	21,758	19,901	17,547	17,380	
事業費の財源内訳	国	0	0	0	0	0	
	県	0	0	0	0	0	
	起　債	0	0	0	0	0	
	その他	0	0	0	0	0	
	一般財源	21,635	21,758	19,901	17,547	17,380	
職　員　数　（人）		0.25	0.11	0.11	0.11	0.11	
職員数の内訳	正　規	0.25	0.11	0.11	0.11	0.11	
	嘱　託	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
	臨　時	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	

＜4．指標＞　ＤＯ

		指　標　名	単　位	目標・実績	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和 2年度
活動指標	1	能舞台利用件数	件	目標	300	300	200	200	200
				実績	167	191	170	－	－
		能舞台利用件数							
	2	和室及び会議室利用件数	件	目標	2,700	2,700	1,900	1,900	1,900
				実績	1,443	1,604	1,611	－	－
		和室及び会議室利用件数							
成果指標	1	能舞台利用率	%	目標	40	40	60	60	60
				実績	50	58.4	51.3	－	－
		能舞台利用件数÷利用可能日数							
	2	和室及び会議室利用率	%	目標	70	70	80	80	80
				実績	72	81.8	81.1	－	－
		和室及び会議室利用件数÷利用可能日数							

＜5．評価＞　ＣＨＥＣＫ

事業を取りまく社会環境の状況	高齢化が進む中、幅広い世代が伝統芸能に触れる機会を提供し、伝統芸能を次世代に継承する取り組みが必要である。
これまでの見直しや改善等の経過	能舞台でのクラシックコンサートなど、自主事業における新たな取り組みを実施し、新規利用者の増加に努めている。

項目別評価	評　価	評　価　理　由
妥当性（実施主体又は手段は妥当か）	■ Ａ．妥当である □ Ｂ．ほぼ妥当である □ Ｃ．あまり妥当ではない □ Ｄ．妥当ではない	市が実施主体であることで、低廉な価格で幅広い世代に利用され、活発に文化活動が行われていることから、妥当である。
有効性（事業分析の「成果」欄に記載の成果は上がっているか）	□ Ａ．上がっている ■ Ｂ．やや上がっている □ Ｃ．あまり上がっていない □ Ｄ．上がっていない	指標である能舞台の利用率は昨年度と比べ若干下がっているものの、有効性は高い。
効率性（事業手法は効率的であるか。）	■ Ａ．高い □ Ｂ．やや高い □ Ｃ．やや低い □ Ｄ．低い	指定管理者の民間ノウハウを活用した事業を展開し利用率も高く推移しており効率性も高い。
総合評価	■ １．計画どおり事業を進めることが適当　□ ２．事業の進め方に改善が必要 □ ３．事業規模や見直しが必要　□ ４．事業の抜本的見直しや廃止が必要	

施策への貢献度	■ Ａ．貢献している □ Ｂ．やや貢献している □ Ｃ．あまり貢献していない □ Ｄ．貢献していない	質の高い能楽公演を市民に提供し、文化・芸術の振興に寄与しており、総合計画に掲げる「文化・芸術に親しめる環境づくり」に貢献している。

＜6．今後の方向性＞　ＡＣＴＩＯＮ

方向性	■ 1.現状のまま継続　□ 2.見直しの上で継続　（ □ 2-1.拡充・重点化　□ 2-2.手段等の改善　□ 2-3.効率化 □ 2-4.簡素化・縮小　□ 2-5.統合　□ 2-6.その他　） □ 3.終期の設定　□ 4.終了（　）　□ 5.休止　□ 6.廃止 今後も伝統芸能の伝承と創造、発信に努め、市民文化を向上させる施設となるよう指定管理者と協議し指導していく。
部局長コメント	指定管理者の民間ノウハウを活かした効率的な施設運営を図るとともに、伝統芸能の普及に努めている。能舞台を有する、伝統文化の拠点施設として、能や狂言などに親しむ市民の裾野を拡げるよう取り組まれたい。

＜7．評価分析＞　※成果増減率、コスト増減率は対前年度比

区分		平成28年度	平成29年度	平成30年度
目標達成率	指標１	125.00 %	146.00 %	85.50 %
	指標２	102.85 %	116.85 %	101.37 %
成果増減率	指標１	－ %	+16.80 %	-12.15 %
	指標２	－ %	+13.61 %	-0.85 %
活動単位コスト	指標１	129 千円	113 千円	117 千円
	指標２	14 千円	13 千円	12 千円
成果単位コスト	指標１	432 千円	372 千円	387 千円
	指標２	300 千円	265 千円	245 千円
コスト増減率		－ %	-12.68 %	-1.81 %